

土石防だより



朝霧高原

静岡県の9月補正予算	2
平成17年土砂災害の発生状況と対策	3
滝沢災害関連緊急地すべり対策事業(藤枝市)	
火山砂防フォーラム	6
インフォメーション	8
平成の大合併	10
石碑を訪ねて	11
募集・お知らせ	12



速報 県の9月補正予算 平成17年 土砂災害の発生状況と対策



速報

平成17年度 県の9月補正予算

災害関連緊急事業に5億5000万円

県の平成17年度9月補正予算が発表されました。

一般会計の補正規模は27億7,000万円と昨年度の73億300万円に比べ45億円余少なくなりました。

砂防関係予算は、5億8,100万円の増額補正があり、9月現計で108億4,938万円余となりました。

補正の内訳は通常国庫補助事業で3,100万円（国の内示及びアロケーションによる市負担金を計上）、災害関連緊急事業で5億5,000万円です。

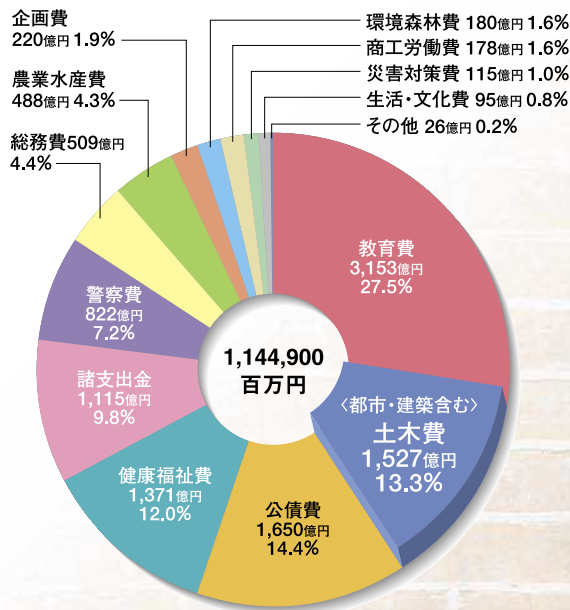
災害関連緊急事業は6月及び7月の梅雨前線豪雨による土砂災害に対する緊急対策（地すべり1件、急傾斜4件）の増額補正です。

■ 平成17年度 砂防関係予算

(単位:千円)

区 分	平成17年度 予算			H16最終予算 (B)	A/B (%)
	当初予算	9月補正額	合 計 (A)		
行 政 費	3,388	—	3,388	19,457	17.4
国庫補助事業	7,440,000	581,000	8,021,000	7,892,849	101.6
県単独事業	1,647,000	—	1,647,000	1,960,000	84.0
国直轄事業負担金	1,178,000	—	1,178,000	1,648,940	71.4
合 計	10,268,388	581,000	10,849,388	11,521,246	94.2

■ 県歳出予算構成比(一般会計) 平成17年度予算(9月現計)



■ 土木部科目別内訳

(単位:千円)

区 分	平成17年度		
	当初予算	9月補正	9月現計
土木管理費	7,678,541	—	7,678,541
道路橋りょう費	69,824,854	1,040,000	70,864,854
河川海岸費	27,648,417	△307,000	27,341,417
砂 防 費	10,268,388	581,000	10,849,388
港 湾 費	7,971,933	112,000	8,083,933
土木費 計	123,392,133	1,426,000	124,818,133
災害復旧費	9,073,000	—	9,073,000
合 計	132,465,133	1,426,000	133,891,133

平成17年

土砂災害の発生状況と対策

土砂災害は、降雨や地震などに起因して突発的に発生し、県民の生命や財産などを一瞬にして奪うなど甚大な被害をもたらします。

平成17年の全国の主な土砂災害としては、3月の福岡県西方沖地震による玄海島の土砂災害、6月初旬の梅雨前線豪雨による九州など西日本の土砂災害、9月の台風14号による九州・中国地方の土砂災害がありました。

県内では、7月9日の梅雨前線豪雨や、台風7号、11号の豪雨により、9月末で地すべり4件、がけ崩れ24件の計28件の土砂災害が発生しましたが人的被害はありません。（全国では土石流457件、地すべり167件、がけ崩れ432件で合計756件）

このうち、災害関連緊急事業として、地すべり事業1件、急傾斜地事業4件の計5件が採択（事業費約839百万円）されました。

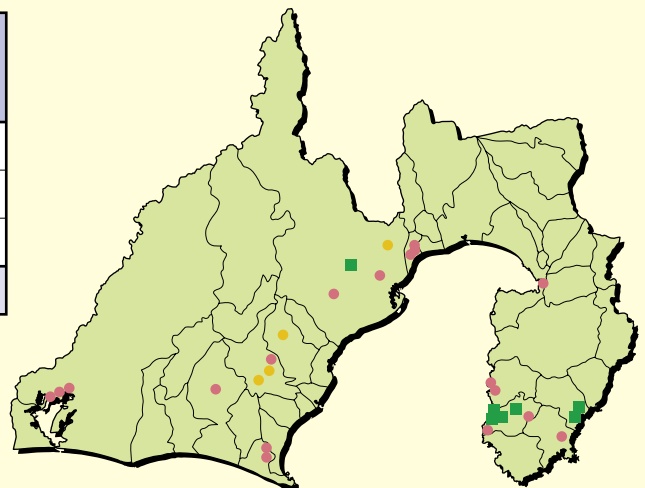
主な土砂災害として藤枝市の滝沢地すべりがあります。滝沢地すべりは7月9日の豪雨により変動が活発化し、その後の台風7号接近時には付近の住民280名に避難勧告が出されました。

また、がけ崩れ24件の内7件は、急傾斜地崩壊対策施設が設置されていたため、被害を軽減することができ、地域の安全に大きく貢献しました。

■ 平成17年 県内の土砂災害一覧表

種別	土砂災害発生日と気象状況							計
	3月23日	4月25日	6月22日	7月5日	7月9日	7月26日	8月25日	
	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	梅雨前線豪雨	台風7号	台風11号	
土石流								0
地すべり					2	2		4
がけ崩れ	1	1	2	1	11	1	7	24
計	1	1	2	1	13	3	7	28

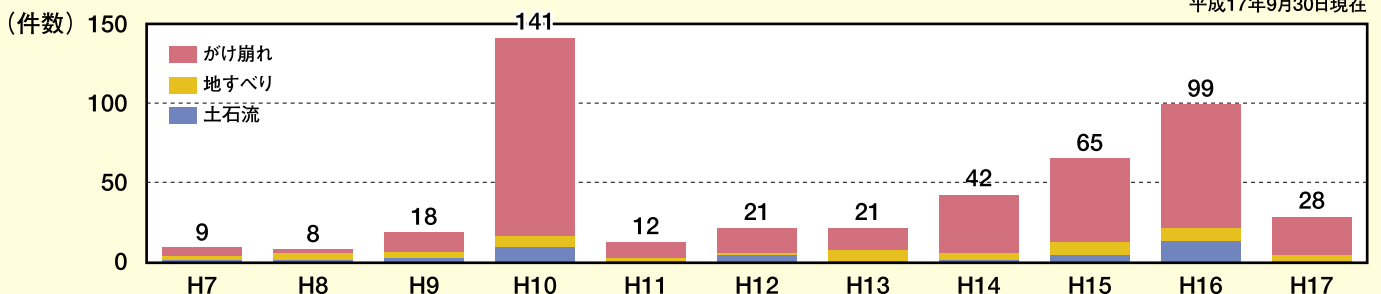
■ 土砂災害発生位置図



〈凡 例〉

- 地すべり
- がけ崩れ
- 対策施設により被害を軽減したがけ崩れ

■ 県内における近年の土砂災害発生状況



原因	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
土石流	1	1	2	9	0	4	0	1	4	13	0
地すべり	2	4	4	7	2	1	7	4	8	8	4
がけ崩れ	6	3	12	125	10	16	14	37	56	78	24
計	9	8	18	141	12	21	21	42	65	99	28

**STOP
the 土砂災害!!**



地域の安全に貢献した急傾斜施設！

今年のがけ崩れ24件の内、7件はがけ崩れにより住宅に押し寄せた土砂や倒木を急傾斜施設（擁壁工）が食い止め、人家（人命）への被害を未然に防止し、地域の安全に貢献しました。



6月22日豪雨 河津町 笹原地区

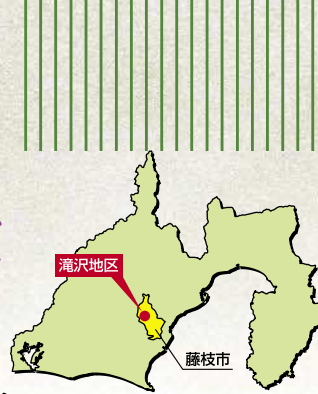


7月9日梅雨前線豪雨 静岡市葵区 南地区



8月25日台風11号 松崎町道部 岩地区

滝沢 災害関連緊急地すべり対策事業



7月9日の梅雨前線豪雨により、藤枝市の滝沢地区（JR藤枝駅北西約10.5km）で地すべりが発生しました。地すべりの規模は幅100m、縦長160m、想定崩壊土砂量15万 m^3 です。

7月25日の台風7号の豪雨により地すべりが活発化し、大規模な地すべり崩壊の危険性が高まったため、藤枝市より地域住民70世帯280名に避難勧告が出されましたが、幸いにも地すべりの崩壊もなく避難勧告は解除されました。

現在の地すべり変動量は、応急横ボーリングの効果もあり減少傾向にありますが、累積変動量が2,000mmを越しており、今後の豪雨により崩壊の恐れがあるため、地すべりの監視体制を強化し、警戒避難体制の支援を行うとともに、災害関連緊急地すべり対策事業により恒久的な地すべり対策を実施します。



地すべりにより市道に発生した段差



滝沢地すべり全景

■災害関連緊急地すべり対策事業概要

- 事業費／615百万円
- 事業内容／応急水抜きボーリング工 L=400m
- 土砂流出防止工(大型土のう工) N=264袋 (以上実施済)
- 応急排土工 V=7,000 m^3
- 吹付法砕工 A=1,700 m^2
- 鋼管杭工 L=1,421m
- 水抜きボーリング工 L=1,400m



伸縮計 (地すべり頭部)



ボーリング調査 (5箇所)



水抜きボーリング工 (応急工事)

2005火山砂防フォーラムの開催

～火山災害から人命と財産を守り生活の場の確保を目指して～



フォーラム

日時	10月13日(木)
会場	富士宮市民文化会館大ホール
内容	第一部 事業報告 『富士山のめぐみ』 富士宮市立貴船小学校、 『コノハナサクヤヒメと富士山』 富士宮市立富士宮第二中学校 第二部 基調講演 『富士山ハザードマップ公表以後の課題』 荒牧重雄氏（山梨県環境科学研究所長） 第三部 パネルディスカッション 『広域連携を踏まえた火山防災』

現地研修会

日時	10月14日(金)
コース	■ 静岡県側コース（白糸の滝→大沢扇状地→宝永山周辺 等） ■ 山梨県側コース（大沢扇状地→白糸の滝→紅葉台、三湖台 等）

10月13～14日に、「2005火山砂防フォーラム」が富士宮市（富士宮市民文化会館）で開催されました。

このフォーラムは、火山地域の自治体が、火山と地域の安全についての理解を深め、安全で活力あふれる地域づくりのための意見交換会等を行うために開催されたもので、今回で15回を数えます。フォーラムには全国各地から多くの火山防災担当者や、富士山周辺住民など総勢約800名が参加しました。

13日のフォーラムでは、火山砂防フォーラム委員長の小室富士宮市長の挨拶、亀江国土交通省砂防部長、静岡県知事、山梨県知事の祝辞のあと、富士宮市内の小・中学生による富士山学習の発表、基調講演、パネルディスカッションが行われました。

14日は、富士山の南側（静岡県側）と北側（山梨県側）に分かれ、富士山周辺の現地見学会が行われました。

また、同時に開催された火山砂防フォーラム委員会で、来年は東京都の三宅村での開催が決定されました。

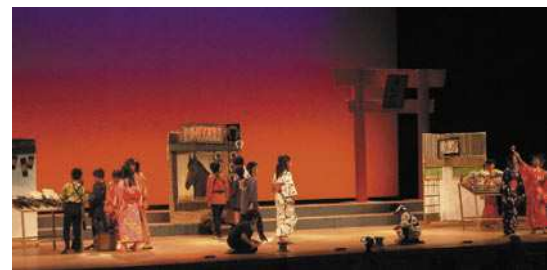
いつ発生するかわからない災害（火山）に対し、平常時からの準備が最重要であり、行政、住民が一体となった県境を越えた連携、情報の共有化、そして防災訓練等の風化防止対策が必要であると感じました。



国土交通省砂防部長の祝辞



パネルディスカッションの様子



上 「富士山のめぐみ」“湧水と生糸生産の歴史”を演じる貴船小学校の皆さん
下 コノハナサクヤヒメを祀る浅間大社で奉納される雅楽を演奏する富士宮第二中学校の皆さん

その他の富士山関係の会議

環富士山火山防災連絡会の開催

7月20日に、環富士山火山防災連絡会が、富士宮市で開催されました。北海道有珠山ふもとの壮瞥町職員や富士山火山広域防災検討会委員の池谷先生により「火山防災の実態と取り組みや広域連携に求められるもの」と題し、火山防災に関する学習、啓発の講演が行われました。講演では有珠山噴火とその教訓から、減災のためには情報の共有（住民、関係機関）が重要であり、災害時は「公助」への期待より「自助」「共助」の精神が大切だと述べられました。



池谷先生による講演

第4回富士山火山防災協議会の開催



協議会の様子（中央が石川知事）

9月5日に開催された第4回富士山火山防災協議会において、富士山噴火に備えて広域防災体制のあり方を協議してきた「富士山火山広域防災検討会」（座長・広井脩東大教授）から、富士山を危険度に応じて5ゾーンに分けた避難計画の整備、要援護者の早期避難を支援する仕組みの構築などを求めた報告書が答申されました。

報告書は噴火の危険が迫った時の避難勧告を出す基準、国や自治体による合同現地対策本部の設置方針などに加えて、事前の火山防災教育の普及や防災対策及び観光業支援のためのホテル・旅館などを活用することの検討を盛り込んでいます。

第5回富士山火山広域防災検討会の開催

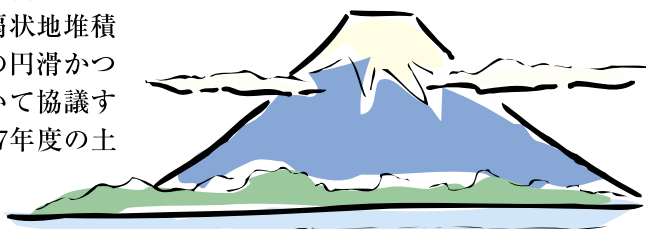
7月11日に、第5回富士山火山広域防災検討会が都内で開催されました。この検討会は、広域的な防災対策の確立に向けて検討を行うため、平成16年11月25日に「富士山火山防災協議会」の諮問機関として設置され、火山との共生のあり方を踏まえながら広域防災対策の基本的方針（案）を取りまとめました。

具体的には富士山火山災害の特徴・課題等から広域防災の方向性や火山情報、噴火時の現象に応じた避難の考え方を整理し、全国、近隣県、近隣市町村等の広域連携策、火山専門家との連携策などを検討した他、富士山との共生のあり方として地域との共生、個人との共生などを検討しました。

大沢川扇状地堆積土砂処理等協議会の開催

8月11日に、平成17年度大沢川扇状地堆積土砂処理等協議会が富士宮市で開催されました。この協議会は、大沢川扇状地堆積土砂及び大沢崩れの砂防工事において発生する土砂の円滑かつ有意義な処理の実施と砂防指定地の適正な管理について協議するものです。土砂処理方針の検討に引き続き、平成17年度の土砂搬出計画が協議されました。

- 平成17年度の土砂搬出量 約18万³m



治山・砂防事業推進議員連盟総会の開催

9月29日に、静岡県議会治山・砂防事業推進議員連盟の総会が県庁で開催されました。この連盟は、安心して暮らせる社会基盤の整備として、治山・砂防事業の一層の推進を図るため、平成9年7月に発足したものです。（現在、連盟への参加議員は71名）総会では、役員改選と平成17年度事業計画が承認され、12月16日に昨年の台風22号で被害を受けた熱海土木事務所管内の治山・砂防関係事業の復旧状況等を視察する計画となりました。



議員連盟の皆さん



奥之山会長の挨拶

【新役員】 (敬称略)

会 長／奥之山 隆
 幹事長／前沢 侑
 幹 事／野澤 義雄
 幹 事／谷 卓宜
 幹 事／杉山 盛雄

由比地すべり対策事業推進期成同盟会総会の開催

7月26日に、平成17年度由比地すべり対策事業促進期成同盟会総会が由比町役場で開催されました。総会には、来賓として望月義夫衆議院議員が出席され、静岡県からは太田土木部技監が出席しました。総会では、平成17年度計画案や予算案等が承認され、また、冨田富士砂防事務所長より、本年度の地すべり調査や工事内容等の事業計画が報告されました。



望月衆議院議員の挨拶

東海4県土砂災害防止法担当者会議の開催

10月14日に、平成17年度第1回東海地区土砂災害防止法担当者会議が岐阜市で開催されました。会議には、東海4県の担当者に加え、国土交通省砂防部砂防計画課及び中部地方整備局地域河川課がオブザーバーとして出席されました。



岐阜市ハートフルスクエアGで行われた会議の様子

この会議は、土砂災害防止法に基づく区域指定に関する問題点などを担当者レベルで協議するため、平成13年から年2回程度開催されており、今回は、土砂災害警戒区域、特別警戒区域の管理方法、土砂災害ハザードマップ作成支援の方法及び気象庁と連携した土砂災害警戒情報の発表基準等について活発な意見交換が行なわれました。

ジオフォーラム2005静岡の開催

9月22日に、「ジオフォーラム2005静岡」が静岡市で全国治水協会静岡県支部の協賛により開催されました。今回のフォーラムは「地質調査の役割」をテーマに、地質調査業協会や県の関係者より8件の報告がありました。また、静岡大学土屋智教授により「地震と地すべり」と題し、地すべりにより発生する土砂災害や、中越地震や台湾921地震による土砂災害の状況について講演が行われました。



フォーラムでの発表の様子

小山町フィルムコミッション事業 地蔵堂川の「銚子ヶ渚」が映画の撮影舞台に

現在公開中の映画『SHINOBI』が好評ですが、実はその撮影が、昨年11月に小山町の地蔵堂川の銚子ヶ渚で行われました。これは、小山町のフィルムコミッション事業によって、映画のロケ撮影箇所として誘致されたもので、この豊かな自然が映画のワンシーンとして採用されたものです。

静岡県では、銚子ヶ渚で平成12年度より下流域住民の保全と自然環境の保護を目的とし、砂防流路工の整備を行い、今年度工事が完成しました。当箇所は、周辺の豊かな自然環境や水辺の利用に配慮した施設づくりを積極的に行い、自然環境の調和と水辺に親しめるように工夫しました。

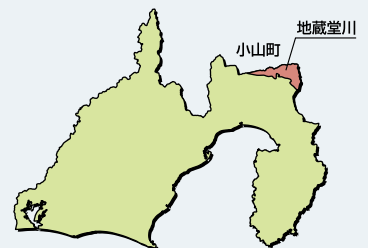


「銚子ヶ渚」で行われた映画『SHINOBI』の撮影風景



砂防事業により整備された流路工より『銚子ヶ渚』（静岡県水辺百選）を望む

地蔵堂川は、神奈川県との県境に位置する足柄峠や金時山に源を発し鮎沢川へと合流する豊かな自然に恵まれた溪流です。また、地蔵堂川周辺の足柄地区は、古くから東西を結ぶ重要な街道が通っており、足利尊氏と新田義貞が戦った竹之下合戦の舞台にもなったように、歴史とロマンにあふれた土地で多くの伝説と豊かな自然が残っています。JR足柄駅～足柄峠までのハイキングコースにもなっていますので、これからの季節、散策してみたいかがでしょうか。

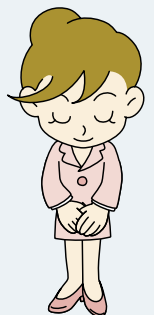


平成17年度 市町村長等砂防事業県外視察（福岡県砂防事業視察）の中止

砂防協会県支部は、8月25～27日に福岡県の砂防事業の視察を予定しておりましたが、台風11号が本県を直撃する恐れがあったため、緊急時の対応を考慮し、視察を中止しました。

今回予定していた視察は、平成17年3月20日に発生した福岡県西方沖地震の被災地である玄海島及び、平成15年7月の梅雨前線豪雨による太宰府市原川の土石流災害現場の視察、及び福岡県の砂防担当者との意見交換することで、逼迫する東海地震に備え、今後の危機管理の参考に企画したものでした。

急な中止で参加予定者の皆さん、福岡県砂防課の担当者等、関係各位の皆様には大変御迷惑をお掛けいたしました。心よりお詫び申し上げます。



平成の大合併

静岡県内でも市町村合併が進み、数多くの市町村が歴史に幕を閉じることとなりました。そこで、旧首長の皆さんに旧町村に寄せる思いを御執筆願いましたところ、快くお引き受けいただきましたので、2号にわたり掲載させていただきます。今回は第1回として、旧春野町長（県支部の旧会計監査役）をはじめ4名の方の思いを御紹介します。

「合併に伴う退任にあたって」

旧春野町長 伊藤晋一郎



周智郡春野町は、7月1日、政令指定都市を目指した浜松市となりました。

時代は、変革の時代、地方もポータレス時代を迎え、私も遠州地方の広域行政のあり方を問われた時、町長として、この歴史的な大合併を担当できたことに感謝したい。

わが町春野は、昭和の合併から、半世紀、過疎対策等に多くの時間を費やしてきました。この間、災害救助法が適用された昭和49年の七夕豪雨をはじめとした幾多の自然災害。その都度、県当局、並びに砂防協会には迅速なる対応をいただきました。

また、近年、急傾斜地崩壊対策事業等の採択により、災害に強い町づくりも、お陰様で一步一步進捗しております。なお一層のご支援をお願い申し上げます。

土砂災害防止法に基づく危険区域の整備率の低水準も気にかかります。加えて、合併による市町村の広域化、会員数減少等、行政レベルの低下が危惧される状況ではありますが、私たちが、これまで求めてきた安心、安全な県土づくり、そして、国土づくりのため、ハード、ソフト両面にわたる危機管理、防災意識の高揚を図っていただくこと希望します。

結びに、県砂防協会のご発展と関係各位のご活躍を心からお祈り申し上げます。

(平成17年7月1日 浜松市)

「合併に伴う退任にあたって」

旧引佐町長 長山芳正



安全で安心して暮らせる地域づくりにと、財源的に厳しい中それぞれの事業推進にご尽力いただいております全国治水砂防協会静岡県支部に感謝と御礼を申し上げます。

引佐町も合併について協議を重ね、時代の潮流を的確に捉え、合併の道を選択し、浜松市に合併し新しい時代の新しいまちづくりに向かってスタートしました。

新市の目指す将来像は環境と共生するクラスター型の政令指定都市であり各地域の特性を活かした、一極集中ではなく均衡ある発展を目指した合併であります。このため全国に先駆けて導入する行政の新しい仕組みである地域自治組織、組織内分権、さらに地域の特性を尊重する一市多制度という三つの柱により都市内分権を進めるものであります。私ども、こうした将来像の実現を目指して協議に協議を重ね新市建設計画を立て協定書に調印したのであります。この合併が対等の精神とかクラスター型とか、ただ単に合併のための言葉に終わらないようにしなくてはなりません。

また平成の大合併は、財政再建が強く効率的な体制を作ることが求められ、国土政策について何一つ見識を示していないのが誠に残念です。

結びに、当協会の益々の発展と関係皆様方のなお一層のご活躍を祈念申し上げます退任の挨拶と致します。

(平成17年7月1日 浜松市)

「自然との共生」

旧賀茂村長 山本正和



人々が愛着の土地で、生涯を安全で安心の恩恵に与って子孫に継承していく事が万物の霊長として義務付けられた私達の使命であります。

自然は、人類に多大な恵みを供与するが反面、見境のない恐怖と残酷を容赦なく振りかざす。

長い歴史の中で味わい続けてきた教訓であります。

郷土と共に生きる人々は、自然との共生を大切にしながら未来に夢を託しています。

温故知新は、行政に関与する首長の使命であり水を治めることに尽きます。

大自然の雄姿は、人々の暮らしの中で生きている事であり、人々の補助があって始めて人々に親しまれる雄姿となって愛されるものです。

今、平成の市町村大合併が進行中であり、わが村も隣町と対等合併をしました。行政組織の規模が拡大しようと大地は動かず自然も其の儘です。人々はこの地で暮らし、育む自然を愛し続けて生きています。

行政組織が広域拡大化しても行政の役割は、定住する人々の安全と安心の確保に尽きます。近代化されていく生活環境の中で、治水・治山は人類延命の絆である事を忘れてはなりません。「転ばぬ先の杖」が、人々の知恵から出た砂防堰堤であり崩壊予防治山であり自然との共有資産であります。

治水砂防事業は人類と共に歩き続けながら自然と共生していくことに尽きます。当協会のより一層のご活躍とご発展を祈念申し上げます。

(平成17年4月1日 西伊豆町)

「旧小笠町民に感謝」

旧小笠町長 黒田淳之助



旧小笠町はお茶で有名な牧之原台地の中央部西側に位置し、静岡県中西部、旧小笠郡のほぼ中央部にあり東名高速道路の菊川ICから南に6km、一級河川菊川、支川である牛瀨川が流れている。

昭和29年に三ヶ村が合併し誕生した小笠町も本年1月16日で50年の歴史を閉じ、菊川市として新しい時代に向けて出発することとなった。50年の時代の流れの中で多くの先人達が町民の幸せのため努力され、産業振興、社会福祉、教育文化と調和の取れた町として発展してきました。

菊川、牛瀨川が流れているため昔から多くの水害に見舞われ、一方牧之原台地周辺では土砂災害も多く、住民生活が危険にさらされることも度々ありました。そのため国、県、治水砂防協会のご指導のもと、住民一丸となり急傾斜地崩壊対策に取り組み、住民生活の安全、安心が確保されてきました。この様な事業が推進されたことは住民各位のご理解、ご協力の賜であり心から感謝申し上げます。

終わりに、全国治水砂防協会静岡県支部のご発展と関係各位のご健勝を祈念申し上げます。

(平成17年1月17日 菊川市)

石碑

をたずねて

<vol.6>

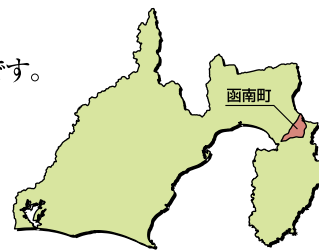
今回は、「小谷之沢砂防事業完成記念碑」です。

小谷之沢は、函南町南東部に位置し箱根山系の鷹ノ巣山の標高690m付近に源を發し、西流して柿沢川、来光川を経て狩野川に注ぐ、流域面積0.64km²の溪流です。

平成10年8月30日の台風4号に伴う豪雨（総雨量522mm）により函南町畑地区において土石流が発生し、住宅2棟が半壊、2棟が一部損壊、倉庫など7棟が全半壊、県道に土砂が流出するなどの被害をもたらしました。

県では、災害関連緊急砂防事業により、砂防堰堤1基（H=11.0m）、流路工121mを施工しました。

石碑はその完成を記念して平成12年に建立されたものです。



- 名称 小谷之沢砂防事業完成記念碑
- 所在地 田方郡函南町畑
- 溪流名 (一) 狩野川水系小谷之沢
- 災害の発生日 平成10年8月30日
- 建立日 平成12年3月

【交通機関】

東名沼津ICより車で60分
JR函南駅、JR熱海駅よりタクシーで20分

土石流が発生した時に、自主防災会が大雨による被害を警戒して役員が非常参集し、危険な状況の中、自主的にパトロールを行い、「大きな石が流れる音」を察知したため、付近の住民の避難を促し、その20分後に発生した土石流から尊い人命を守ることができました。土砂災害による人的被害の未然防止及び、その後の復旧活動における同会の功績を称え、平成11年度に土砂災害防止功労者として建設大臣表彰を受けました。



畑自主防災会の皆さん



土石流により被災した家屋



流出土砂により埋もれた県道

案内コーナー

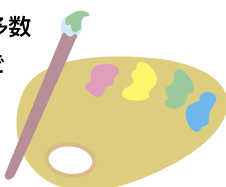
土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文の応募のお礼

6月1日～9月15日の間、県内の小中学生の皆さんに土砂災害及びその防止についての関心と理解を深めていただくため、作品を募集したところ、多数の応募をいただきました。誠にありがとうございました。

なお、入選発表及び表彰式は平成18年3月を予定しております。

【応募状況】

部 門	小学校	中学校	合 計
絵 画	20	10	30
ポスター	33	22	55
作 文	1	5	6
合 計	54	37	91



2007砂防カレンダー 「現場周辺の山・谷・川」写真コンテスト

砂防関係工事（砂防、地すべり、がけ崩れ対策など）現場やその周辺の仕事、暮らし、余暇活動、山、溪流、花、動物等をテーマに2007年砂防カレンダーの写真を募集しています。

応募資格	制限はありません
サイズ	カラー写真で四切りサイズ (四切りワイドを含む)
締め切り	夏の写真/平成17年 9月30日(受付終了) 秋の写真/平成17年12月26日(消印有効) 冬の写真/平成18年 3月31日(消印有効) 春の写真/平成18年 6月30日(消印有効)
入選及び賞金	優秀賞/各季節各1点 計4点 賞金各10万円 佳作賞/各季節各2点 計8点 賞金各 5万円

作品募集に関する詳しい問い合わせ先は…
NPO法人砂防広報センター TEL (03) 3459-1591
ホームページアドレス <http://www.sabopc.or.jp>

土砂災害防止写真コンテスト

【テーマ】

- 砂防施設のある風景
- 住宅等を守る砂防施設
- 緑を守る砂防施設
- 崩壊地・土砂災害の状況



応募資格	制限はありません
サイズ	白黒、カラープリントとも四切りサイズ (四切りワイドを含む)
締め切り	平成18年3月31日(消印有効)
入選及び賞金	最優秀賞/ 1点 賞金20万円 特 選/ 2点 各5万円 佳 作/10点 各2万円

作品募集に関する詳しい問い合わせ先は…
(社)全国治水砂防協会 写真コンテスト係
TEL (03) 3261-8386 FAX (03) 3261-5449
E-MAIL:kyokai@sabo.or.jp



- 10月20～21日 市町村等砂防担当職員研修(三重県宮川村ほか)
- 11月 15日 全国治水砂防促進大会(東京都・砂防会館)
静岡県支部砂防関係事業促進要望
- 21～22日 東海地区全国治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議(愛知県)

【表紙写真】



朝霧高原

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記まで問合せ下さい。

編・集・後・記

10月13日に行われた、富士山火山フォーラムに参加しました。フォーラム当日は、受付の手伝いをさせていただきました。富士宮市内の各地区の町内会長さんをはじめ富士山周辺に暮らす地元の方々の皆さんが多数御来場されており、関心の高さに驚きました。

情報提供、執筆を関係各位にお願いしております。是非ご協力をいただくとともに砂防だよりをご愛読いただきますようお願い申し上げます。

砂防だよりが砂防室ホームページでも見られるようになりました。砂防室HPアドレス：<http://doboku.pref.shizuoka.jp/sabou/index.html>